

今日のトピック

円高の急伸を背景に日本株式は大幅安

ポイント1 大幅安となった日本株式

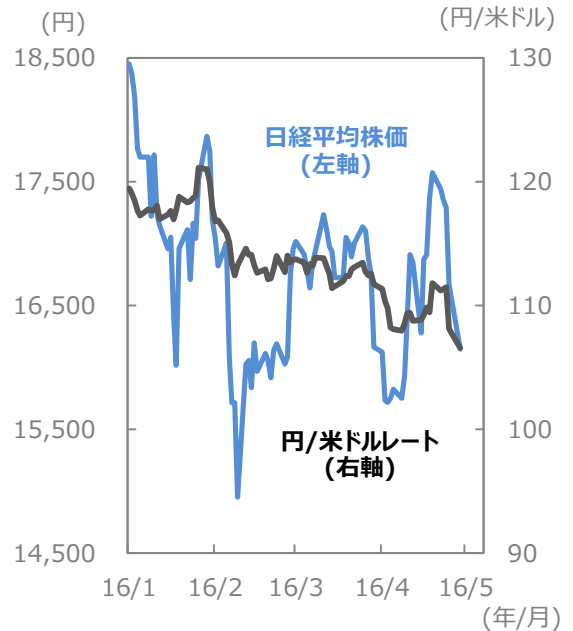
2014年10月以来の円高を嫌気

- 週明けの東京株式市場は大荒れの展開となりました。日経平均株価は、日中に一時約1カ月ぶりに1万6,000円台を割り込みました。その後は、狭いレンジでの推移となり、▲518.67円の1万6,147.38円で引けました。
- 今回の調整は、4月28日の金融政策決定会合で日銀が追加金融緩和を見送ったため、急激な円高米ドル安が進み、それが嫌気されました。円/米ドルレートは、14年10月以来の106円台を付けました。

ポイント2 材料が重なり、円高加速

- 今回の円高は、さらに幾つかの材料が重なりました。1つが4月29日に発表された米国財務省の半期の為替報告があります。日本は、中国などとともに為替操作への監視を強化する「監視リスト」に指定されました。このため、日本政府の円売り介入は難しいとの認識が強まったようです。また、日本がゴールデンウィークを迎えたことで市場参加者が限られていたことも円高を加速させた要因と思われます。

【日経平均株価と円/米ドルレート】



(注) データは2016年1月4日～5月2日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に
三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 企業業績の下方修正は想定内で5月の経済対策等に注目

- 当面は、円/米ドルレートの落ち着きを待つ必要がありそうです。米国財務省は日本を「監視リスト」の対象としましたが、財政政策や積極的な構造改革が重要と指摘しています。5月26-27日の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）において、各国が財政出動で協調することを演出できれば、景気の先行き懸念が払拭され、円安トレンドへの転換も考えられます。
- 円高の進展によって企業業績が下振れる可能性も指摘されていましたが、下方修正は想定内の範囲内に留まっている模様です。今後の業績を予想する上で通貨の安定や景気刺激策が重要で、こうした観点からも5月の経済対策やサミットの動向が注目されます。業績の悪化に歯止めがかかることが確認できれば、株価も次第に下値を固めることが可能と考えられます。

ここも
チェック!

2016年4月28日 日銀の金融政策（2016年4月）
2016年4月18日 日本株式市場の足元の動向と今後の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。